

令和4年度 第3回 丹波市障がい者施策推進協議会 会議録

| | |
|----------------------|---|
| 日時 | 令和5年2月10日（金） 午後2時 |
| 場所 | 氷上住民センター 大会議室 |
| 出席者 (敬称略・ 順不同) | <p>【委員】 足立一志、谷 和義、関 真博*、長尾恵子、谷口泰司、足立由夏、坂上具子、大槻真也、亀井賢一、高見忠寿、中原有美*、西野隆博、西山裕之、山川茂則、細見美貴子、吉村智加子 *…オンライン参加 ※欠席 …酒井泰成、藤井和枝、青木 茂、熊野研吾、</p> <p>【オブザーバー】 衣笠恵美（丹波市障がい者基幹相談支援センター） 峰元義博（ハローワーク） ※欠席 原田早苗（丹波障害者就業・生活支援センター ほっぷ） ※欠席 川野みか（ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西ブランチ）</p> <p>【事務局】 高見智幸健康福祉部長、足立和義障がい福祉課長、荒木信博障がい福祉課副課長兼障がい福祉係長、細見明弘障がい支援係長、荻野悦代主任社会福祉士</p> |

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 各部会の状況について

- ①地域支援部会/相談支援事業所連絡会…資料①～③
- ②就労支援部会…資料④、⑤
- ③療育支援部会…資料⑥、⑦、⑧

[事務局から説明]

[会長]

ありがとうございました。ただいま、三部会長さん並びに事務局からの報告は終わりました。何かご意見ご質問等ございませんでしょうか。

[委員①]

地域部会と就労部会、それぞれ質問させていただこうと思います。まず、地域部会で相談支援の話がいろいろと出ていたと思うんですけど、まず、児童であれば、児童発達や放課後児童クラブといった制度への移行であるとか、障害者支援施設に入所されている方に関しては、地域移行、グループホーム等への移行であるとか、就労であれば一般就労の方へ行く形になるんですけど。サービス利用等計画の中で一番初めにニーズの調査が出ていますが、その辺りに関しまして必ず確認していただけるような計画のシートの様式に変更するとかですね、相談支援の中で、ある程度様式を共通化して、対応していただく方がいいのかなと思うんです。様式ってどうですか、統一化されているんですか。

[委員②]

サービス等利用計画の様式は丹波市で統一の様式を使っています。項目の方は国が示

している教本に日中活動等の希望であるとか、それに対してどう支援していくとか、ご本人さんのご希望であるとか、そういったところの必要性が上がっているところがありますので、ご本人さんの動きとかを聞きながら、きちんと実現に向けて取り組んでいけるよう関係機関とお話をしながら、支援目標を立てて取り組んでいく形になっております。

[委員①]

様式の中で本人の意思が反映されるように、整合性が取れるような形で、支援の方をよろしくをお願いします。

[委員②]

ありがとうございます。サービス等利用計画は、今、委員①が言っていたように、その人の、その方にとってどういったところを目指していくのかは、どういった支援が必要なのかといった、チームといいますか、支援機関を含めてみんなが共通認識できる大切なものであるというところを相談支援専門員もしっかりと意識しておりまして、あとは、しっかりと皆さんと共通認識できるように努めているところではあります。

またしっかりと計画の方に、漏れと不備が無いように、反省もしっかりして、皆さんと共有ができるように、また個別支援計画に反映していけるように、会議等も含めモニタリングのところでも確認をしていけたらと思っています。

[委員①]

もう1点、次、就労の方になるんですけど、先日、障がい者雇用率の方が、令和5年度から2.7%になる。ただ経過措置として令和6年度からが2.5%、令和8年からが2.7%になるという形になると思うんですけど。今は2.3%。43.5人以上の事業所が対象となりますが、これが37人以上の事業所が対象となってきます。今まで特に、小規模の事業所は関係ないよと言っていたのが、企業さんとかもかなり対象となる企業が増えてくると思いますので、対象になる事業所さんがいらっしゃいましたら、勉強会とか制度の周知だとかが必要かなと思います。特にこの2年間、数年間というのはかなり大きくパーセントが変わりますので、理解を浸透させるのにも、よいタイミングかなと思ったりもしますので、自立支援協議会、そちらの方とも連携しながらやっていただけると良いのかなと思っています。

[会長]

ありがとうございました。その他、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。
委員③どうぞ。

[委員③]

就労支援部会で、就労アセスメントについて、進路研修会をお世話になりました。

今年度初めて西高の通級担当の先生が参加されたんですけど、結果的に1人だけの参加だったんですが、通級担当以外にも、数名参加して良いかという申し出があったんです。

今回、声が掛かったのは西校だけということで、高校への突破口だったと思うんですけど、西校の反応としては、多くの先生が知っていたら、進路の幅もより広がり、その人にあった進路を選ぶことができるということで、とても喜ばれていました。また今後、卒業後に主に就職をするように他の高校にも声掛けをしていただけたらありがたいなと思います。

[会長]

ありがとうございます。では、委員④。

[委員④]

令和4年度、氷上特別支援学校のコミュニティスクールの施行校として県から指定を受けてます。今、地域の学校はコミュニティスクールとして、南小学校とか、三輪小学校もそうかなと思います。

新聞で見たりするんですけど、今度、兵庫県が、特別支援学校もコミュニティスクールということで、学校運営協議会を作って、地域に向けて取り組まれていますので、たまたま声かけていただいてやらせてもらっています。

先日、会議に参加しましたが、保護者の方も、PTA会長さんとかもいらっしゃいました。その中の話で、なかなか情報が、うまく取れない、それこそ就労の関係も、市内にどんな事業所があるのかと言われましたので、こんなものを作ってますと就労支援マップを紹介してもらいました。ただ、やっぱりホームページとがあってもそこまでたどり着く、そこへ行くまでがなかなか難しいみたいです。

私たちもそうだと思うんですけど、要は、市役所の窓口へ行ったらホームページに載せてますとか言われて帰ってくることもよくあるんですけど難しいです。

それこそその時は、そのリンクを特別支援学校のホームページに書かれたらどうかと話しました。就労に限らず、いろんな情報を、例えば、税の優遇であったりとか医療のことであったりとか、なかなか探し難いということも言われてましたので、これからそれぞれの部会で発信できることがあれば、非常に難しいんですけども、そういう情報が取りやすいようにする。特に今は皆さんスマホを利用される時代ですので、何かそういう方法があればなというふうに提案をさせていただきます。

あと、相談支援の計画を見させていただいて、しっかり計画を立てられてるんですが、障がい福祉の分野に限らず、例えば今は地域共生社会とか言ったりしますので、その辺の勉強も多分されると思うんです。けど、例えば、障がい福祉計画だけではなくて、地域福祉計画の勉強もしてもらったら、相談員の支援の幅が広がったり、いろんな気づきがあったりして、変わっていくのかなと思います。ですので相談員さんに守備範囲を広げてもらう。そんなことも時にはできたらいいかなと思いました。

[会長]

ありがとうございました。貴重なご意見。

その他ございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、続きまして、議事の方に入ります。本日の次第の4です。本日の議事テーマは一つです。丹波市障がい者・障がい児福祉プラン策定方針案につきまして、事務局の方からご説明をお願いします。

[事務局から説明]

[会長]

来期のプランの策定方針が出ましたけども、ここで広く皆さんのご意見を伺いたいと思います。どなたからでも結構です。何かご意見、ご質問をお願いします。

冒頭申し上げましたように、次期の委員さんに引き継ぐ意味でも、それぞれのご立場から活発なご意見いただきたいと思います。委員③、どうぞ。

[委員③]

アンケートの関係のことになるんですけども、内容については、重複する部分と趣旨が違うという部分があるかもしれないんですけど、アンケートとセットにする感じで、先ほど委員④が言われたようなことで、形の意味では分からないんですけど、何となく思うのが、チャート式みたいな感じで、こんな感じの人は、相談支援事業所こんなところがあるとか、こんなサービスがありますとか、現在、あるサービス、ニーズにあったサービスが受けておられるかというイメージができるものがセットで付いていたら、分かりやすいなあというふうに思ったりします。

すごく対応してなくてもいいんですけど、それぞれの人が自分にあったプランを受けら

れている状況にあるのかってということを見なおしてもらう機会になりつつアンケートに答えてもらったら、アンケートをイメージして答えやすいのかなと思いました。少し具体的に言うと、例えば、うちの学校の保護者の方の意見なんですけれども、医療センターに定期受診をされてますが、障がい者マークがついている駐車場は、いつもいっぱいなんだと、もし仮に一つ空いていたとしても、歩くことは可能なので、使うのを遠慮してしまう、でも実態的には歩くという行為は可能なんだけど、すぐに疲れてしまう。頑張り過ぎたら、長期にわたって体調を崩すんだということを相談で受けたことがありました。

聞いたら、そういう場合は、ヘルプマークというものがあるよって教えていただいたんです。ヘルプマークが具体的に、駐車場なり、分かりやすいところで、使えたらいいなという風に思いました。

あと、避難のことについても、家庭的に避難にとても苦労しているんだという悩みをききました。これはくらしの安全課の方に伝えておいたら考えてもらえるというふうにお聞きしたんですけど、その辺の情報なんかも、こういう悩みの時には、どこに相談したらいいかってなるものが、この中に組み込まれていたら良いなと思いました。本校が校外外食学習で、市内の飲食店を利用するのに、配慮していただける店が多くて、とても助かっているんです。でも、一方で、行きたいお店で席が狭いとか、トイレが狭いとか、あとお母さんが一人で男の子を連れて行くのには、付いて行くのにはばかられるという悩みをお持ちだったりするので、市内全域どこも網羅をして欲しいということではなくて、どこだったら利用しやすいのかという分かるヒントがアンケートで出てきたらいいのかなと思いました。

[会長]

ありがとうございます。今の件につきまして、事務局何かありますか。

[事務局]

アンケートの件についてもご意見いただきまして、ありがとうございます。前回取ったアンケートは手帳を持っている方のうち3000人に送らせていただいており、今回同じような形で、もう少し何か工夫ができないかなと考えております。

アンケートを送る中で、聞かれるばかりで何のこと聞かれているか分からないといったことは前回にもあったかと思えます。今、いただいたご意見のように、少しこちらから何か情報が提供できるようなせっかくの機会というふうにも捉えられますので、お知らせも含めながら意味あるアンケートになるように工夫したいと思えます。

[会長]

ありがとうございました。その他ご意見どうぞ。委員⑤どうぞ。

[委員⑤]

今の事務局が質問に回答された返事に対応するような話しなんですけど、丹波市のサポートファイルに関するアンケート調査のところがあると思います。うちの病院の心理士からサポートファイルっていうのはすごく良い情報があって、大変ありがたいものだっていう意見を聞かせてもらってます。親御さんがサポートファイルの必要性を理解されておらずに、学校を卒業されたら捨ててしまわれることもあるみたいで、せっかくの良い資料なのに、親御さんが価値を分かってないっていうことを言っておりました。教育と福祉と医療の連携に非常に役立つアイテムなので、ぜひ有効利用すべきという意見もありますので、認識いただいて利用されたらいいのかなと思います。

[会長]

ありがとうございました。まったく同感です。その他無いでしょうか。どなたでも結構です。

それでは広くご意見をいただきたいところです。まず、当事者団体の立場から委員⑫、この計画策定とかアンケート調査につきまして何かご意見、また、期待とかありましたら、お聞かせください。

[委員⑫]

今、皆さんの意見を聞いてますけど、私自体、もう一つ分かってないということが実情です。令和4年から委員をやりまして、もう少し飲み込みができてないというのが事実。それで障がい者の支援と言いますが、実際に障がい者になった場合にどうしてもらおうか、私自身も障がい者ではありますが、人に負けるのは嫌なので、自分の仕事でも従業員の顔も毎朝チェックしながら覚えていって、朝5時から夜12時まで頑張った。やはり本人が社会へ出て働く気持ちが無いとダメ、甘えがあってはダメだと思う。人に負けないように頑張らないといけない。その気になったらできると思います。

当事者の気持ちを聞いてアンケートを取ってあげて欲しいです。

[会長]

ありがとうございました。

それでは、市の社協さんの立場から、計画策定とか、アンケート調査の内容につきまして、また寄せる期待でも結構です。いかがでしょうか。委員⑥。

[委員⑥]

ちょっとよく分からないんですけども、今、お話しの中で出ていたサポートファイルなんですけど、私は見たことがないんです。ですので、そういうのが知れたら良いなと思いました。

[会長]

サポートファイルについて委員③何かコメントはございますか。

[委員③]

サポートファイル、県の中でも自治体によって、保護者発信と行政からっていうのがあって、丹波市の場合は行政からとなります。健康課が作ってそれを学校にいる期間は学校で保管をさせてもらうことになっています。指導の役に立てさせてもらっていますが、持ち主は本人と保護者なので、本人と保護者のものを学校が責任を持って預らせてもらっているっていう形になります。丹波市の場合は基本高校を卒業するまでは学校保管で、高校卒業する時には、一旦は本人か保護者にお返しをして、そこから必要だと思ったら自分たちで、就職先なんかに理解を求めるために、渡してもらおうとか、活用してもらおうっていう形をとっています。なので、学校にいる期間は、うちの学校については活用させてもらっています。社会に出てからは本人、保護者の意思によるところが大きくなると思います。

[会長]

ありがとうございました。

続きましてサービス事業者といたしまして、かたくりの委員⑨、計画策定とか指針とか出ておりますけども、普段のお考えでも結構です、何かございますでしょうか。

[委員⑦]

マイク越しで、耳が悪いのか、非常に聞き取り難くて内容が伝わってこないんです。どうなのかなと。

[会長]

それでは、時間も押しておりますけども、委員⑧、教育委員会から、何かご意見ございますでしょうか。

[委員⑧]

先ほどサポートファイルの話が出ておまして、保護者の方が捨ててしまうことがあるという話を聞いて、少しびっくりしました。先ほど細見先生の方からもお話しがあったように、小中学校においては学校で保管をさせてもらっています。大変指導に役立つもので、担任をする者からすると、小さいときの生い立ちであるとかがよく分かりますので、参考にしながら指導に役立てるということがあります。

また小学校から中学校に行く時にも、サポートファイルを引き継いで中学校での指導に役立ててもらっているところです。高校であるとか大学であるとか、義務教育課程を終えた後の、社会の中においてもサポートファイルの重要性というものだんだん見直されているということをお聞きしておりますので、広いというか長期的な視野を持ってサポートファイルによって支援をしていけたらなと思いました。保護者の方について、サポートファイルの重要性であるとか、活用が十分にされているんですというところを、何らかの機会でお伝えしていけたら良いなということをお考えました。

[会長]

ありがとうございました。

それでは、障がい者団体としてご参加いただいております木の根会の委員⑨、何かご意見ございますでしょうか。

[委員⑨]

今年に入ってから家族会の関係で、一人暮らしをされている方が年末年始の休み中に亡くなられたりとか、今年の2月に入ってもありました。先ほどの1月の方も一人暮らしの方、2月の方も一人暮らしで、兄弟は近くにいらっしゃいました。ちょっと調子が悪かったんですが、今年の寒さで調子が悪くトイレに行かれた後に亡くなられました。そういったことが立て続けにあったんです。私達家族会、関係者とか知ってる方で昨年にもありました。そういうことがあって、近所の方が見たら、おかしいからと家の人に電話してあげてということが、去年、今年、よくあるんです。家族会でも議論になることもあるんですけど心配なことですので、いろいろ話したり考えていきたいなと思います。一応ヘルパーさんに頼んだりされますが、ヘルパーさんが来られてる次の時に、そんなことがあってすごく悲しい出来事がありました。

あんまりいいことではないんですけど、聞いてもらいたいと思いました。

[会長]

ありがとうございました。

リモートのお二方、お待たせしました。それではサービス事業者としまして、委員⑩をお願いします。

先ほどの地域支援部会から述べました新しい指針からでも、施設から福祉施設入所者の地域移行のことも出ておりますけども、そのあたり入所施設の管理者として、いかがでしょうか、次期計画のことでも結構です。

[委員⑩]

みつみ学苑と春日育成苑の施設を持っておりますが、平成14年からグループホームを建設していき地域移行を進めておりました。

その当時の両施設に入所されている比較的軽度な方を優先させていただいて、家族の理解の下でグループホームに移っていただいた経緯がございます。今現在は20年ほど経過しまして、20年地域移行をされた利用者さんは、高齢化、それから認知症な

ど、さまざまな重度化されている方が出てきておられます。そういった方については、元のみつみ学苑なり春日育成苑に戻ってきていただくとか、そういうことも今の現状です。今現在みつみ学苑に入所されてる方につきましては、障がい程度の重い方がほぼほぼでして、なかなか今、そういった中で地域を目指すということ、特に若い方についてはいらっしやらないような状況でございます。

地域移行に繋いだ経験が、他の施設に居た時には、比較的軽度な方について、グループホームとか、いろいろな施設に繋いだ経験がありますが、特に一人暮らしの場合は我々も同じで、急に一人暮らしとなると、いろいろな問題があります。近隣とのお付き合いとかもありますし、お金や収入の面では親の援助があるかないかとか、空白の2年間という18歳から20歳までは障害年金が該当しない2年間がありますから、その間どう過ごしていただくかとか、相談員さんとか含めていろいろと、連携が大変でした。

そういったことを思い浮かべながら聞いておりました。

[会長]

ありがとうございました。

それでは、同じくオンラインでご参加いただいております、丹波県民局委員⑬、全体を通してで結構でございます。何かご意見ございますでしょうか。

[委員⑬]

障がい者・障がい児福祉プランにつきましては、県の方も見直しを行っていきます。圏域としてはそれぞれの市の計画を注視するようになりますので、また連携させていただきますようお願いいたします。

一つお尋ねしたいことがあります。本日の療育支援部会の中でも出ておりました、医療的ケア児の支援の関係が出ていましたが、医療的ケア児の方が災害時に大変お困りになられることがあり、そういった方への支援に取り組んでいます。その中で家族の要望としては、電源を確保したいということがあります。総務省の方では医療的ケア児の方に日常生活用具の購入の支援がありますけれども、今は発電機などは対象になっていなかったようにあるんですが、対象になるように配慮いただければありがたいなと思います。

[会長]

ありがとうございます。電源の確保、事務局よろしいでしょうか。

[事務局]

日常生活用具の非常用発電機の件ですけれども、現在、要綱の見直しをしまして、来年度から対象にしていくように考えております。

[会長]

ありがとうございます。

時間が押しておりますけれども、一言ずつはいただきたいと思います。丹波市自治会長会からお越しいただいてます。委員⑭、全体を通してで結構です。何か、ご感想ご意見ございますでしょうか。

[委員⑭]

別に、これということはないんですけど、ずっと話を聞かせていただいて、やっぱりこういう支援といいますか、我々地域の人間として、一般の方に何かお知らせしたりとか、ちょっと思った時に支援ができるようなお知らせというのか、そういうことをどうしたら実効性があるものにできるのかなと、考えてみたんですけど、協力できることあれば実施していきたいなと思いました。

[会長]

ありがとうございます。どうかよろしく願いいたします。

それでは本日初めてご参加いただくことになっております。委員⑮から何か全体を通して結構です。何かご意見、ございますでしょうか。

[委員⑮]

このような会議に初めて出させてもらってるので、何が何だかわからない状況で聞かせてもらってました。

その中で、木の根会の委員⑨が、お一人暮らしの方が急に続けて亡くなられたって言われました。私も民生委員させてもってる中で、高齢の方、一人暮らしされてる方はやはり、冬場に急に亡くなられるっていうことを経験してます。お一人暮らしだから、ずっと気には掛けてますけども、民生委員の立場と、近所のおばちゃん、おっちゃんって感じで。ですけど、やはり後で亡くなられてたんやと聞いたりしたら、民生委員として何してたんやろとか、思うこともあります。ですので普段から、冬場だったらヒートショックに気をつけてねって、温度差とか、お風呂入る時とか、そういう時に気をつけてねという言葉添えて、これからも声かけ訪問をさしてもらいたいなと思ってます。高齢の方、お一人暮らしの方が、急に亡くなられて寂しい思いをずっと経験もさせてもらってるので、辛い思いをされたんだろうなと思って聞かせてもらいました。ありがとうございます。

それと、民生委員に、お話しがあるっていうふうなことを聞かせてもらったので、定例会等を各町でやってますので、急いでこの新年度4月から始まる中で、一度来ていただけると、ありがたいなと思いました。

[会長]

ありがとうございました。

議事は以上になります。オブザーバーとしてご出席をいただいております。オブザーバー①、全体を通して、ご感想等お聞かせください。

[オブザーバー①]

今日は所長に代わりまして参加させていただきました、柏原公共職業安定所です。

現状では、就労関係の部分にしか携わっておりませんが、総合的な障がい者に関する施策の取り組みについて、いろいろ聞かせていただきました。また今後、丹波市においても、このようなプランが、作成された時には、安定所としても協力できる部分は協力させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

[会長]

ありがとうございました。

それでは、次に、次第の6、その他に入ります。皆様方の方から、この場でお知らせしたいことはございませんでしょうか。委員④、どうぞ。

[委員④]

毎年、この年度末、県の基本相談支援事業として行っております。引きこもりについての交流学習会のチラシを配らせていただいております。毎年いろんなテーマで開催しているんですけども、今年は明石市から松井勝也さんというずっと20年30年、兵庫県の引きこもり親の会を引っ張ってこられた方に来ていただいて、お話を聞くことになっております。もし興味がある方いらっしゃいましたら、また皆さんの周りでも居られましたら、ご紹介いただけたらと思います。

[会長]

ありがとうございました。
今年の3月18日の土曜日でございます。春日ですね。
それでは、次回に向けて事務局からの連絡をお願いいたします。

[事務局から説明]

[会長]

ありがとうございました。
事務局からの説明がありましたけれども、この点につきましてご質問はよろしいでしょうか。
それでは最後に副会長であります関西福祉大学の委員⑩の方から、お気付きの点等ございましたらお願いいたします。委員⑩お願いします。

[委員⑩]

今日も活発な、意見交換聞かせていただきまして、私も大変参考になりました。気付いたというか若干程度なんですけどもお伝えします。協議事項の前の報告事項の中ですが、例えばまんがいちネットが非常に大事だと思いますので、こういった部分を引き続き定着させていただきたいなあと思いました。あと就労の資料、就労支援部会の事業計画案、その他のところに、優先調達法というのがあります。これは、例えば次期3カ年の障がい福祉計画での就労の促進のところになります。これは、実際に事業者さんが頑張るっていうだけでなく、市役所さんが、ほんとに優先調達できるものが無いか、洗い出しをしてみると、意外にあったりするんですね。塵も積もればではないんですけど、そんなところの側面的な支援っていうのも、非常に大事じゃないかなと思います。

一方で療育支援部会からの報告で良いなと思ったのが、いわゆる障がい部局だけではないところに、医療的ケア児等のコーディネーターを配置されるっていうことで、これ非常に興味深いというか、これですよっていうふうに私自身は感じました。実際、いよいよ来年度は計画になっていくんですけど、資料10で、プランの構成を見た時に、丹波市非常にいいですね。具体的なサービスがどうしたこうしたという以前に、一番目に理解の促進とか、二番目に差別解消・権利擁護、これはぜひ譲らないで欲しいですし、3年というよりも障がい者計画の方はもっとスパンが長いと思うんですけど、10年先見据えて、この10年間は例えばこういう地域の理解っていう部分を、全面的に押し出していくっていう、これを重点施策にしますよっていう、ある意味、丹波市さんの方針になっていくのかなというふうに思いました。その上で、計画に関しては、分かりやすい版というのも作っていかれるということなんですけども、分かりやすい版っていうのも、みんなの意見聞いてもらってもいいかなと思います。分かりやすい版って多くの自治体は割と、内容を圧縮して、平たい言葉でっていうのがあるんですけど、僕はあれは分かりやすい版かな、という気はするんです。何が言いたいかというと、分かりやすい版というのは、ひらがなで書いたり、平易な言葉にするということじゃなくて、読み手が、私のこと、我が事とか、身近なことっていうふうに感じてもらえる。別に漢字だろうが何だろうが、全然構わないと思うんです。一つの例ですけど、兵庫県の計画は、今年トップページに幹太君、この地元の子どもさんが地域で受け入れられてという部分があったんですね。あれはほんとに施設がどう、サービスがどうという以前に訴えるものっていうのがありますので、各部会への宿題ということではないんですけども、来年一年間かけて、計画にぜひ載せていただきたいような身近な部分で感じられる事例を、集積されてそれを計画に散りばめたら、もっともっと計画は身近なものになっていくのかなあとというふうには思いました。その上でアンケートなんですけども、これは行政がおっしゃるように、前とガラッと変えると比較ができないので、これはぜひ、継続する項目は継続していただきたいと思うんです。

その上で、これは質問というよりも今後検討いただければと思うんですけど、対象者抽出数は全数を基本にされるってということなんだけど、施設に入所されてる方ってどうされますかということ。他市町に入所さしてしまってるけど、支給決定は、うちが行っているっていわゆる住所地特例の施設入所の方も、できれば全数拾い上げていただきたいなと思います。背景なんですけど、やっぱり国連の勧告で、施設入所に関して、ちょっと考えましようっていう考えが出てきてる中で、次期計画の時には、いわゆる国の単に何%とかいうことじゃなくて、施設入所者でも、実際の思いとか、そういう部分を拾い上げるってというのは非常に意味があるかなと思います。その人達も含めた調査表が一種類になると、無記名で返ってくるので、確実に項目の中に施設に入所しているっていう、そこにマルが付いてればいいんですけど、付いてなければ分析のしようがないんですね。かといって匿名にするわけにもいかないし、ちょっと工夫をしてもらって、例えば施設入所の方に送る時には、調査票の色を変えてみるとか。個人が特定されない形でやっていくとか。

仮説ですけど、例えば経験値であるとかできること、望みとかいうのは、地域で暮らしておられる障がいの方の傾向と施設入所されている方が答える傾向ってというのは違うかもしれない。もっと言えば、実はそこが問題なんですよ、ひいては地域の理解ですよっていうことにはなってくる、ということもあり得るので、施設入所されている方の思いは、今回は丹念に聞いていただければと思います。その1項目だけ、今申し上げると、アンケートの4ページの間14で、1から3を選択した場合、つまり、今後暮らしたいところで、家族と一緒に生活、一般の住宅、グループホームを利用したいという方に対して、その下の選択をした場合にはどんな支援があればっていうふうに繋がっていつてますので、これはこれでいいと思う。もし考えたら、この4番、5番を答えた方、何でなん？何で今後も施設に入所続けたいの？何で病院に入院続けたいの？っていう、そこをやっぱり知ってということが大事かもしれない。場合によっては以前に松山市でそういうアンケートをとってしまして、そんな在宅に基盤が無いやん、つまり、施設がより望ましいんじゃないかと、仕方なく入所入院しているという部分がもし上がってくるとすれば、それは早急に改善しないといけない項目なんですけど、その方たちの声がどこかで拾えるような工夫があればいいかなというふうに思いました。

[会長]

ありがとうございました。

以上で本日の予定をいたしております会議は終了でございます。事務局、よろしいですか。

それでは、閉会に際しましてリモートでご参加いただいております副会長、閉会に際しまして、ご挨拶をお願いいたします。

[副会長]

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事がすべて終了しました。これで本日の会議を終了させていただきます。リモートで失礼いたしました。お気を付けてお帰りください。